

まつお ちあき
松尾 智晶

共通教育推進機構 准教授
修士(政策・メディア) /
慶応義塾大学

☐ ホームページ URL

<http://www.chiakimatsuo.com>

主な研究業績

- 令和2年3月「学生アスリート向けインターンシッププログラムの学習効果」(共著) 京都産業大学高等教育フォーラム 5, pp1-8
 - 令和2年3月「インターンシップの予期的社会化に係る効果と大学教育における有効性に関する研究」(共著) 独立行政法人日本学生支援機構「学生支援の推進に資する調査研究事業(研究助成)」成果報告書
 - 平成28年12月「キャリア・コンサルタント資格の有無が相談満足度と与える影響(査読付)」(共著) 日本産業カウンセリング学会
 - 平成27年3月「初年次・同一科目名複数クラス開講コースのデータに基づく再系列化 - 「自己発見と大学生生活」の改善を例として - (査読付)」(共著) 京都産業大学高等教育フォーラム 5, 233-32 頁
 - 平成26年11月「教育の質保証に向けた見学者による授業リフレクションの意義(査読付)」(共著) 大学教育学会誌 38 (2), 52-55 頁
 - 平成26年3月「授業実践者のヒアリングデータに基づく PBL ルーブリックの開発(査読付)」(共著) 京都産業大学高等教育フォーラム (4), 37-44 頁
 - 同上「初年次キャリア形成支援教育科目「自己発見と大学生生活」 - キャリア科目担当学生ファシリテータ活動について - (査読付)」(共著) 京都産業大学高等教育フォーラム (4), 71-80 頁
 - 平成25年4月「キャリア科目受講満足度とモチベーション向上に関する考察(査読付)」(単著) 京都産業大学高等教育フォーラム (3)
- 【研究発表】
- 令和元年11月「正課科目インターンシップの教育的効果に関する研究 - 自ら行動する予期的社会化行動に着目して -」(共著・筆頭) 日本キャリア教育学会第41回大会
 - 令和元年9月「理工系学部初年次生を対象としたキャリア教育科目の教育的効果に関する研究」(共著・筆頭) 日本キャリアデザイン学会第16回大会
 - 令和元年9月「初年次教育の運営を支える学びのコミュニティの構築 - 学生スタッフ制度を中心に -」(共同・ラウンドテーブル・企画者) 初年次教育学会第12回大会
 - 平成30年9月「初年次ポータル科目の運営体制とマネジメント」(共同・ワークショップ) 初年次教育学会第11回大会
 - 平成29年10月「大規模初年次教養教育科目と教育ボランティア学生「学生ファシリテータ」活動の狙いと実践」(共著) 日本キャリア教育学会第39回大会
 - 同上「低単位学生に特化したキャリア教育科目の実践と概念化の試み」(共著) 同上
 - 同上「Some analyses on educational programs for development of human resources.」(単著) AASVET (アジア職業教育訓練学会) 2017
 - 平成29年8月「大学のキャリア教育とキャリアカウンセラーの新たな関係性」(ラウンドテーブル発表) 日本産業カウンセリング学会第22回大会

【書籍】

- 平成30年9月「グループ・キャリア・カウンセリング - 効果的なキャリア教育・キャリア研修に向けて -」(共著) 金子書房
- 平成29年4月「自己発見と大学生生活 ~初年次教養教育のためのワークブック~」(共著) ナカニシヤ出版
- 平成29年4月「課題解決型授業への挑戦」(共著) ナカニシヤ出版
- 平成27年12月「ICT(授業協力者)と共に創る劇場型授業 - 新たな協働空間は学生をどう変えるのか -」(共著) 東信堂

キーワード

キャリア教育、産学連携教育、キャリアカウンセリング

研究テーマ Research theme

キャリア教育の基盤理論に関する研究
- 主体性を高めるキャリア教育の可能性と課題 -

概要 Overview

1999年文部科学省中央教育審議会が定義した「キャリア教育」は、若者の未就業者増が社会問題化したことを契機に、学校教育に積極的に導入され、2011年大学設置基準改正を機に大学においてキャリア教育(キャリアガイダンス)をおこなうことが義務化されました。このことは学校教育が『学生の職業社会への移行支援』に積極的かつ組織的に関与するよう求められる傾向を示しています。米国ではキャリア教育が学生の学習意欲・学力向上に寄与するとの観点から90年代中期以降、あらゆる階層の生徒・学生に対して体系的な実践がおこなわれましたが、大学全入時代を迎えた我が国においても、個人が自律的に自らのキャリアを生涯形成し続ける意欲と能力を獲得できる教育の展開は、喫緊の課題です。これまでの実践と研究成果のひとつとして、2017年に初年次教養教育科目「自己発見と大学生生活」の教科書①を上梓しました。

一方、地方活性化と地方を支える人材育成の観点から、大学の教育機能拡充と地域貢献性を高める目的で、産学連携教育(コーオプ教育)の推進に対する社会的ニーズも高まっています。そこで、異なる目的をもつ組織としての企業と大学が、協同的かつ継続的な関係を結びつつ、両者に介在する大学生(人材)にとって望ましいキャリア形成支援プログラムをいかに開発し、実践するかを明らかにする研究を進めています。具体的には、インターンシップ、プロジェクト科目の実践活動などを手がけており、後者の成果である2012年度の学生の素案は2014年に日本キャリア開発協会(JCDA)から「人生すごろく 金の糸」として商品化されました。②

大きな期待が寄せられるキャリア教育・キャリア形成支援ではありますが、その教育効果の検証手法は未だ確立しているとは言い難い状況にあります。就職できたかどうか、という短期的な視点でのみとらえられることも少なくありません。またOECD調査によれば諸外国と比べ「自己肯定感」「自己効力感」「将来への希望的展望」に対する日本の若者の評価は顕著に低く、自己確立が不十分な状態で即効的なスキル教育に傾倒し過ぎることは、個人の生涯を支えるキャリア自律の観点からは注意が必要です。この観点から個人・組織・社会にとって望ましいキャリア教育・キャリア形成支援プログラムの開発に取り組んでいます。キャリア形成、キャリア自律に不可欠な主体性の涵養を重視したキャリア教育、PBL(課題解決型授業)、コーオプ教育、行政や地域団体が実施する未就業者就業支援事業、少子化対策事業、キャリアカウンセリング資格団体が実施するキャリア形成支援事業、キャリアカウンセリングを実践し、研究対象としています。



①: 初年次教養教育科目教科書「自己発見と大学生生活」(共著)



②: キャリアカウンセリング体験ツール「人生すごろく 金の糸」

応用分野 Application areas

- 学校教育: 大学、学校での学びが個人のキャリア形成意欲に与える影響
- 人材開発: 企業、行政における人材育成制度及び教育効果の向上
- 雇用行政: 未就業者の就業促進及び生涯に渉るキャリア形成力の獲得

共同研究等へのニーズ Need for joint research

- 教育学分野(キャリア教育、進路指導、職業教育)
- 心理学分野(キャリアカウンセリング、発達心理学、社会心理学)
- 社会学分野(教育社会学、キャリア形成に係る制度)